



大地の芸術祭

今月、日本にお仕事で一時帰国しています。越後妻有アトリエンナーレ“大地の芸術祭”のお手伝いをするためです。どうしてわざわざ英国から日本の新潟へ働きに来たかという、早い話が、2003年にこの芸術祭に関わっていなければ、今の自分はいないからです。私が舞台照明に出会えたのは、この芸術祭のお陰でした。

日本で美術短大生だった頃、インスタレーションアートやプロダクトデザインに興味があり、当時はペイントでの色彩構成や彫刻、シルクスクリーンや映像作成など、さまざまなことを模索していました。短大卒業後、今後の進路に迷いながらバイトをする日々でしたが、元クラスメートからある日、“大地の芸術祭”という面白そうな国際芸術祭が新潟であるみたいなんだけど、ボランティア『こへび隊』を募集しているみたいだから行ってみない?と誘われました。ちょうど、その芸術祭の説明会が東京であったため、参加して話をきいてみると、新潟妻有地域の6つの村・町の森や棚田などの自然界と、道端や空き家、閉校した小学校などの空間を使い、大規模かつ大胆なアートが繰り広げられているのです。過疎化が進む村や農村地帯の現状と、豪雪地帯に生きる美しくも過酷な自然と人々の営み、そこで培われてきた穀物や文化、生き様をテーマに、世界各地からアーティストを招いて、その土地でしか存在しない作品を制作してもらうという過程で、地元と都会、お年寄りと若者が一緒になってそれらの作品制作に関わることで、アートを通

じて地域の活性化と自然への見直しに繋げていくことを目的とする、とても画期的な芸術祭なのです。芸術祭総合ディレクターの北川フラム氏のそのようなお話を聞いて、とても感心し、是非関わりたいと思いました。

はじめは、山奥の大きな土壁彫刻の制作に携わったり、アーティスト宿舍の清掃や、地元のお母さんたちとおにぎりを握ったり、地味な作業でも人と自然に心洗われるような体験を沢山できました。数週間たった頃、この芸術祭のために建てられた半野外劇場『農舞台』のイベントチームが、人手が足りていないということだったので、自分はこへび隊としてイベントチームに配属されました。そこで舞台のブの字も知らない素人のこへび隊たちに、舞台とは何かを基礎から教えていた曾我傑氏、私の師匠に出会ったのです。こへび隊の中には、地元の人も何人かいました。自らの力で、自分たちの地域の劇場とアートを守っていけるように、彼らの意識を高め技術面を育てること、そしてそこに魅力と誇りを感じてもらうことを、師匠は目指していらっしやるようでした。人と地域と自然と舞台、その繋がりを重点に、舞台、そして舞台照明の哲学、技術、仕組みと過程を、飛び飛びの数週間で叩き込んでもらったのを覚えています。叩き込まれたというよりも、彼の照明に魅了させられたから必死に見て学んだというほうが、正しいかもしれません。

劇場は半野外なので、舞台奥は吹き抜けで、美しい棚田の風景が広がっ

ています。これを照明でどう当てるかによって、舞台美術の見え方が変わってきます。地元の方々は、いつも見慣れている棚田が、幻想的に姿を変えて観客を喜ばせているのを見て、とても嬉しそうでした。誰でも、自分の生まれ育った土地が人々に良い印象を与えているところを見るのは、とても喜ばしいことだと思います。

この半野外劇場は、客席をパイプイスやござで自由に増やせるキャパ三百~千人くらいのスペースで、芸術祭期間中に行われる公演の種類はダンス、コンサート、演劇、サーカスなどさまざま、世界各地からパフォーマンスアーティストが招かれ、公演が頻繁に行われます。私の仕事は、来るアーティストの要望に応え、照明デザインや、テクニカルコーディネーター、通訳など、海外アーティストと日本のサポートチームを繋ぐ役割をしています。新潟の美味しいご飯を毎日食べて、仲間と一緒に公演を作り上げ、いい汗をかいた後に温泉に入る。長時間労働もありますが、自然に囲まれた、なんとも心癒される環境です。

「今後、舞台照明を勉強したいのだったら、いろいろな国の作品やアーティストが集まる米国か英国があずさ(自分)には向いているかもね」と、アドバイスをくださったのも師匠でした。自分も英国には興味があったので、その言葉に押されたように、芸術祭終了直後に渡英しました。あの出会いがなければ、きっと自分は照明の道に進んでいなかったかもしれないと思うと、芸術祭に誘ってくれた友人に感謝の気持ちでいっぱいになります。

今振り返ると、2003年の芸術祭での体験は、人生で一番青春した瞬間であったし、いつも新潟のこの劇場にくと初心に帰れる気がします。光への感動。現場で初めて点く明かりを見て『あ、点いた♡』と、心がふわっとときめく感覚は、照明の仕事であと何十年やっても、自分の中でなくならないほしいものです。



2003年『真実のリア王』舞台風景－農舞台にて。